

日本と台湾の新時代を拓く

第19回

日台文化交流 青少年スカラシップ

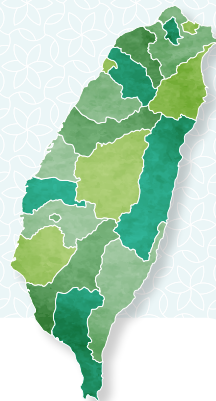


実施報告書



第19回

日台文化交流 青少年スカラシップ



実施報告

日本と台湾の青少年による文化交流の促進を目指す「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」は、作文とスピーチ(中国語・台湾語)の2部門で学生から作品を募集し、286点の応募がありました。

第19回は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、表彰式および研修旅行は実施しませんでした。代わりに、2023年3月27日(月)にオンライン交流会を実施しました。

審査委員 ※敬称略・順不同

審査委員長

渡辺 利夫 拓殖大学 顧問

作文部門審査委員

張 温 恭 台北駐日経済文化代表処 広報部 次長

阿古 智子 東京大学 総合文化研究科 教授

林 翠 儀 自由時報 東京特派員

河崎 眞澄 東京国際大学 国際関係学部教授

桑村 朋 産経新聞 編集局

スピーチ部門審査委員

黄 明 珠 台北駐日経済文化代表処 広報部 部長

杜 文 劍 横浜中華学院 校長

蔡 偉 華 東京中華学校 教務主任

林 翠 儀 自由時報 東京特派員

河崎 眞澄 東京国際大学 国際関係学部教授

桑村 朋 産経新聞 編集局

主催:  産経新聞社

共催: 台北駐日経済文化代表処

協賛:  JR東海  MITSUI & CO.  臺灣新聞社
TAIWAN NEWS

協力: 外交部 教育部 台湾日本関係協会  Taiwan 台湾観光局
THE HEART OF ASIA

後援:  公益財団法人
日本台湾交流協会 Japan-Taiwan Exchange Association 自由時報

入賞者

※順不同

作文部門

大賞

黒木 大誠 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年

優秀賞

甲田 愛珠 横浜中華学院高等部 2年
上野 友誠 東京大学教育学部附属中等教育学校 3年
勝又 みひろ 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
金谷 春輝 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年

青谷 樹衣 新潟県立大学 3年
福田 笑心 鹿児島県立大島高等学校 1年
鈴木 捷万 鎌倉学園高等学校 3年

奨励賞

美甘 まりあ 大阪府立守口東高等学校 2年
本木 和 東京大学教育学部附属中等教育学校 3年
太田 陽子 大阪市立大学 3年
山本 葵 兵庫県立長田高等学校 2年
富田 柚 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
有本 智香 東京大学教育学部附属中等教育学校 3年

岩田 柚花 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
齋藤 結 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
横井 愛樹 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
加藤 桃子 近畿大学 1年
水本 乃愛 同志社大学 4年
小柳 亜美 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年

佳作

二之宮 朔実 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
谷古宇 愛麗 山梨県立甲府西高等学校 2年
飯田 小蒔 東京大学教育学部附属中等教育学校 3年
児玉 燦 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
鍋屋 昂志 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年

伊藤 萌衣 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
関田 なごみ 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年
松浦 沙豊己 東京大学教育学部附属中等教育学校 3年
峯岸 泰希 成城学園中学校高等学校 1年 (中学1年)
根本 真海 東京大学教育学部附属中等教育学校 2年

スピーチ部門

大賞

溝口 璃温 横浜中華学院高等部 2年

優秀賞

荒川 紋乃 岐阜市立女子短期大学 2年
田村 夏琳 関西学院千里国際高等部 3年
鈴木 颯子 青山学院大学 4年

中田 愛 東京中華学校高等部 2年
河野 港 国際基督教大学 3年

奨励賞

楊月 汐音 横浜中華学院高等部 1年
森井 菜月 横浜中華学院高等部 1年
吉野 夏乃葉 大阪府立水都国際高等学校 3年

九十九 康太 東京中華学校高等部 2年
中野 心優 平成国際大学 3年
山中 里奈 大阪府立大学 4年

※学校名・学年は2023年3月現在

祝辞

平和で明るい未来は次世代の手で築く

台北駐日経済文化代表処代表 謝長廷



受賞者の皆さん、おめでとうございます。

「日台文化交流 青少年スカラシップ」は、今回で19回目の開催となりました。長年にわたり、このイベントを通じて、日本と台湾の次世代の交流が着々と進み、隣人である台湾の歴史や文化、言語などに対する認識はますます深まっています。

近年、日本の街中ではよく「台湾」を見かけるようになりました。台湾料理をはじめとする台湾文化を身近に感じ取り、日本にいながらにして台湾のことを知って学べます。台湾は既に皆さんの生活の一部となったのではないのでしょうか。

台湾は多様性に溢れた国です。ホーローや客家などの漢民族、台湾原住民族、新住民など、多種多様な文化と言葉は「台湾」という土地で出会い、絡み、融合して、今日皆さんが知る台湾を醸成しました。同じ台湾といっても、それぞれの台湾経験は異なります。皆さんの作品には各々が体験したさまざまな「台湾」の姿が反映されています。

同じ台湾が違う姿を持っているように、一つの事に対して、国と国、人と人は違う意見、立場、見方があり、時折争いに発展することもあります。しかし、皆さんが実践している通り、台湾の言

葉を学んだり、台湾の人々とつながったり、まだ知らない台湾を発掘したりすれば、台湾という異国がもっと好きになるでしょう。

このような国際交流は、人と人、国と国のお互いに対する理解をより一層深め、篤い友情と絆を育むものです。台湾は1999年台湾中部大地震で日本に助けられ、後に台湾が東日本大震災で恩返しの手を差し伸べたように、この「善の循環」は、まさにその証拠です。国境を越えて互いを思いやる友情や互いの相違に対する理解は、世界のあらゆる人々が望む紛争なき平和につながります。これは小さな

始まりですが、いずれは大きな実りとなります。若い頃からの交流で築かれた友情が、平和で明るい未来を創り上げることと信じています。

3年間にわたり続いたコロナはようやく落ち着き、台日両国の国境が開放され、観光や人的交流も再開しました。是非台湾を訪れ、新しい台湾を見つけ、台湾の友人を作り、自分なりの「台湾物語」を描いてみてください。

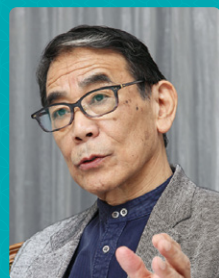
これから皆さんは台湾と日本の未来の懸け橋になるでしょう。皆さんの今後ますますの活躍を心より期待しています。ありがとうございます。謝謝大家！



審査委員長講評

自己表現の重要性について

拓殖大学 顧問 渡辺 利夫



作文部門で大賞を取られたのは黒木大誠君です。タイトルは「台湾から考える私達の未来」というものでした。1999年9月21日に台湾で大きな地震が起きました。その時、黒木君の一人の伯母様は台中日本小学校の教員でしたが、台湾の人々に大いに助けられました。また黒木君にはもう一人の伯母様がいて、この方は2011年3月11日に東日本大震災が起った時には岩手の小学校の教員をしていました。台湾から遠いこの岩手の地に台湾の人々は大変熱い支援を送って下さったそうです。

その岩手にある保育園も、台湾の人々の支援を受けて、その後も順調に運営を継続しており、名前も「日台きずな保育園」となって現在にいたっているそうです。自分も何かの恩返しを台湾にしたい、しかしそのためにはまず台湾のことをよく知ってからでなければなりません。目下、黒木君はいろんなルートを使って台湾のことを一生懸命に勉強しています。「他者を理解すること、そして認め合うこと」これが最も大事だという黒木君の主張、とても説得的でした。体験の重み、事実の重み、これは体験を文章にしなければ出てこないものだとは感じています。黒木君の作文に高い評価を与えた次第です。

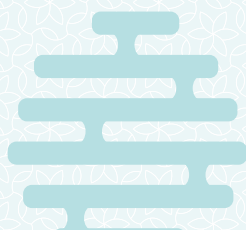
スピーチ部門で大賞を受賞されたのは、溝口璃温君の「客家と私」です。家族の歴史から自分のルーツを知り、それを受け止め、さらにその背後にある民族や文化への関心を深めていく姿勢が実によく描かれており、ります。

ある時、シンガポールに住んでいる溝口君の叔父様が日本にやってきました。その時、溝口君は初めて英語でもなく中国語でもない第三の言葉を耳にしたそうです。「何語ですか」と聞いたところ客家語だといわれ、溝口君は自分の家族が客家のルーツをもっていることを知らされたのです。中国の混

乱を逃れて家族はまずシンガポールに渡ったのですが、しかしそこも安住の地ではなく、家族の一部は日本にやってきました。その一人が溝口君の曾祖母だそうです。運命的ですね。

そういう過酷な運命にありながらも、客家の人々は、客家の伝統文化を脈々と受け継いでいることに溝口君は深い感銘を受けて、自分もそういう伝統文化の継承者になりたいと主張されています。このスピーチは、みずからの体験を実にうまく客体化しながら表現しているという点で、私には大変興味深いものでした。

テーマはさまざまでしたが、君たちの作文やスピーチを読み聞いていて、私は改めて自己を表現することの重要性を強く感じさせられました。表現することによって初めて私どもは自分の感じていること考えていることを客体化できる。そして初めてこれを自分の思想として定着させることができるのです。感じていることがいかに重要であるか、私は今回の日台スカラシップの審査員の一人として君たちの文章やスピーチを読み聞きながら強く感じさせられました。今後も一層文章化の努力を続けて欲しいと思います。





東京大学教育学部附属
中等教育学校 2年

黒木 大誠

謝辞台湾、そして未来へ

この度は「日台文化交流 青少年スカラシップ」作文部門において、大賞という大変栄誉ある賞に選出していただきまして、本当にありがとうございます。

まず、初めに「謝辞、台湾のみならず、僕の家族を助けてくれて、本当にありがとうございます」といって「家族を代表して、やっ」と、お礼を言うことができます。



横浜中華学院高等部 2年
甲田 愛珠

この度は、「日台文化交流 青少年スカラシップ」作文部門においてとても輝かしい賞を頂戴できたこと、大変嬉しく思っております。私はこの作品を書くにあたって、「私と台湾の思い出」として「これからの私と台湾」という二つの大きなテーマにフォーカスして

天燈が、私の願いを届けてくれた

書こうと決めました。その結果、台湾は私にとって夢であり、故郷であり、希望だということに気づかせてくれました。今年はいよいよ台湾留学の要となる受験の年になるので、今回の受賞経験を生かしてより一層受験勉強に励みたいと思います。

家族が、どうしてもできない中、本当に台湾の方々に助けてもらっていました。3・11でも、また、たくさん支援をいただきました。私達家族にとって、台湾の人々は、命の恩人です。だからこそ、昨今の世界情勢、台湾問題の緊張の高まりに、小学生のころには知らなかった、学ぶことがなかった、台湾問題に、中学生の私なりに考え、父と議論をしました。

また、コロナ禍の3年間、台湾での、オードリー・タン氏のコロナ政策の話もニュースで知りました。ITに関する、台湾の特集も見たり聞いたりし、台湾への関心が私の中で高まっていく中で、この作文を書きあげました。

それは、一個人として、どうしたら、台湾の方々に礼ができるのか、どうしたら、台湾の方々とともに理解し合えるのか、というジレンマの中での、チャンスだった。

ただだと思います。

受賞の一報を聞いた時、母、祖母、伯母が感極まって泣きました。それは、9・21で、助けてくれた台湾の方々、3・11で支援してくださった台湾の方々に、やっと、お礼を伝えることができる機会が得られた安堵感だらけです。

これからは、私達の時代です。私達が立ち上がり、ともに手と手を取り合って、助け合い、自由と独立とその価値観をまもり、発展していく時代にならうと、強く願っています。

最後に、このような機会を与えていただきました。産経新聞社、台北駐日経済文化代表処、各協賛、協力、後援してくださった皆様、本当にありがとうございます。

大賞の名に恥じぬよう、これから少しでも日台交流のお役に立つことができるよう、一生懸命、勉強します。

優秀賞



東京大学教育学部附属
中等教育学校 3年
上野 友誠

この度は第19回日台文化交流 青少年スカラシップの優秀賞に選んで頂きありがとうございます。まさか受賞するとは思っていませんでした。僕が台湾に興味をもつきっかけは、オードリー・タンさんの書いた本でした。この本を通じて

台湾の民主主義を知って

台湾の民主主義の在り方について知り、大きな衝撃と共に感動しました。台湾の人々が民主主義の必要性を理解して、政府も国民も信頼しあっている。民主主義の理想形であるように感じました。今後はさらに詳しく台湾を知って日本の民主主義を考え直したいと思います。



優秀賞



新潟県立大学 3年
青谷 樹衣

この度は優秀賞をお与えいただきありがとうございます。私は、夢にまで見た台湾留学を果たし幸福なことに現地でも出会いに恵まれ、日本では知りえなかった数え切れないほどの尊い経験と学びを得ました。しかし、目まぐるしく時間が過ぎていく中で、いつの間にかその教えは過去として

もう一つの台湾

沈もうとしていました。そこで今回、私の台湾との出会いを文字にして多くの方に読んでいただくことでこの大切な物語を生かし続けたいと感じたのです。文中で述べた出会いが私を変える光となったように、これを読んでくださった方にとっても新しい台湾を知ることきっかけになれば幸いです。

優秀賞



東京大学教育学部附属
中等教育学校 2年
金谷 春輝

この度は、優秀賞を受賞し、大変光栄に思っております。私は今回、台湾で生まれた祖父のことで、台湾で働いていた曾祖父のことを書きました。私たちが日々当たり前に飲んでいる「日東紅茶」は台湾発祥です。この事実を知っている人は少ないと思いますが、目に見えないだけで、身近な日

本と台湾のつながりはたくさんあります。この作文を書く中で、日東紅茶のようなつながりが今でも私たちの生活の中に影響を与えているのかを考えることができました。今後は、より一層、日本と台湾のつながりに関心を持ち、関係が深まるよう貢献したいと思えます。

優秀賞



東京大学教育学部附属
中等教育学校 2年
勝又 みひろ

この度は優秀賞に選出いただき、誠にありがとうございます。自分の好きなことを書いた文章で受賞できたこと、とても光栄に思います。今回私が作文の題材にさせていただいた「幸福路のチー」に限らず、アニメやゲームなどの文化は台湾と日本を繋ぐ上で非常に大きな役

割を持つていると思います。それと同時に、私たち日本の若者が台湾の存在を身近に感じる手段としても有力です。非常に近い距離の日本と台湾でも、文化や歴史を知れば知るほど違いが見つかります。その違いが作る、お互いの独特の魅力をこれからも知り合っていければと思います。

日東紅茶と私、日台のつながり

優秀賞



鎌倉学園高等学校 3年
鈴木 捷万

この度は、優秀賞に選出いただきありがとうございます。私は今回、中学時代に開催された台湾の楽団との合同演奏会後に触れた台湾の民族楽器に感動したこと、それを機に和楽器の魅力に気づき祖父から譲り受けた尺八を練習し始めた経験などにつ

いて書きました。音楽には、どんな国境をも越えて人々を楽しませる力があると思います。将来は、日台両国の民族楽器を使った演奏会を開催するなど、草の根交流を通じて、日台関係をさらに強固なものにできるよう貢献したいです。

音楽を通じた日台交流

優秀賞



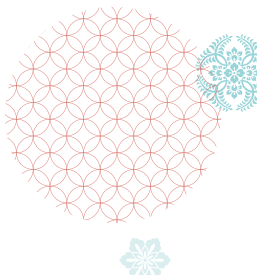
鹿児島県立大島高等学校 1年
福田 笑心

この度は優秀賞に選出いただき、大変嬉しく思います。私は、台湾を知ったきっかけに始まり、オンラインで現地の高校生と交流をして得た学びや今後の目標を自分の考えを交えながら書きました。台湾は、私が住む奄美大島と似ている面が多くあり、非常に興味深い場所です。現地

の高校生との交流の中で出てきた海のプラスチックゴミ問題については、奄美大島に共通することも多く、改めて日本だけの問題ではないのだと感じました。これからも視野を広く持ち、様々な経験を通して世界で活躍できる人になれるように私に出来ることは何か、日々考えて行動していきたいです。

違いが作る魅力

台湾を学ぶ、日本を学ぶ





横浜中華学院高等部 2年

溝口 璃温

自分のルーツと向き合った受賞

私は今回の第19回日台文化交流 青少年スカラシップのスピーチ部門で大賞に選ばれて、大変うれしく思います。

正直、私はスピーチ本番の時、あまり自信がありませんでした。けれども、この一回をやり切つてやるという気持ちを胸に挑んだ結果、大賞に選ばれました。

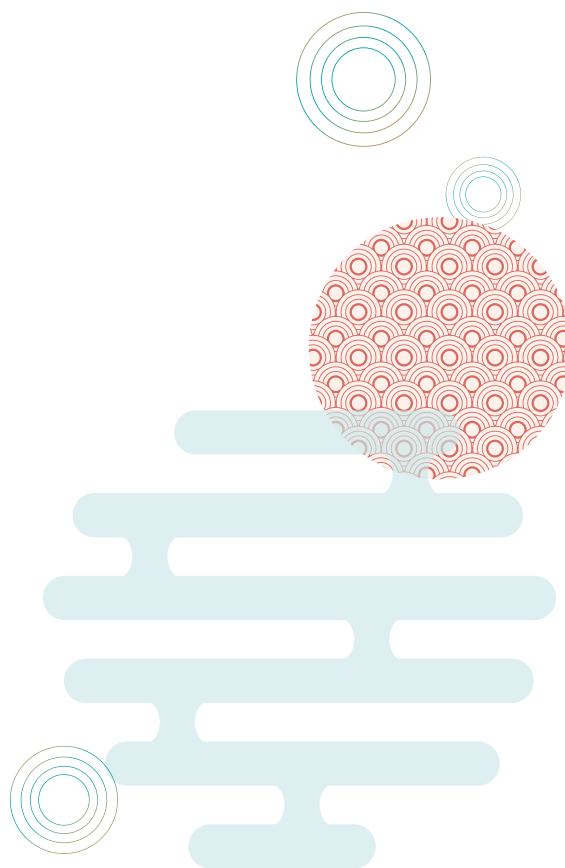
私は今回受賞させていただいた「客家と私」という作品の制作にあたり、自分のルーツの大切さについて改めて認識することができました。小さい頃から、私は祖父母や母から自分自身のルーツである国や曾祖父や曾祖母の話をよく聞かされてきましたが、その頃の私は横浜中華街で生まれ育ち、幼稚園から高校まで横浜中華学院で当たり前

のように華僑の人たちと関わりをもちながら生活を送ってきた為、見たり聞いたり体験してきた文化や食が身近にありすぎたせいかあまり関心がありませんでした。

しかし、コロナウイルスによる長い自粛期間に直面し、いままでの生活が一変しました。外部との接触や関わりがなくなつた一方で、SNSやインターネットを通してコロナ前よりも自分の置かれている以外の文化や環境を知ることが増え、自分は日本にいながら華僑や客家などの食や生活、家族との関わりを通して、自分が置かれている立場がどれだけ特別で、どれだけ価値のある物かということをもっと感じました。

コロナによる気が遠くなるような長い自粛期間が終わり、客家の文化でもある獅子舞や龍舞等の活動が再開し、国境が開かれたことでシンガポールの親戚が来日し、自分達のルーツや先祖の昔話について聞くことができました。それにより、より一層、自分自身の客家と台湾の深い関わりについて知ることができ、今回の作品にその思いと体験を書くことができました。

近い将来、今度は台湾に自ら出向くことで、台湾の客家や他の民族とも深くふれあいながら、見て感じて思ったことや体験を重ね、自らのバックグラウンドを次の世代やさらにもっと先の後世に伝えていきたいです。



優秀賞



青山学院大学 4年
鈴木 颯子

この度は、スピーチ部門の優秀賞に選出していただき、大変光栄に思います。大学の第二外国語で中国語をはじめたこと、多くの台湾人と出会って、日台関係に興味をもつたことは、私の人生を大きく変えました。中でも、台湾人の政治への向き合い方には、日本人が学ぶべきところが

たくさんあると思います。こうした素直な思いを、皆様に中国語で発表でき、またそれを評価していただけたことが、とても嬉しかったです。これから台湾で日台関係を研究する中で、日台友好に貢献する自分なりの方法を見つけられるよう、精進してまいります。

優秀賞



関西学院千里国際高等部 3年
田村 夏琳

この度は優秀賞に選出して頂き、ありがとうございます。昨夏、台湾の東海岸にミサイルが落ちました。私が台東の海辺に遊びに行った日の出来事でした。この日、私は祖国の安全保障について強い危機感を覚えました。同時に、私と家族や友達、現地の

人々との深い繋がりは決して壊されないのだと確信しました。今回のスピーチを通じて、私の思いが少しでも多くの人の心に響いていたら嬉しいです。これからも日台の架け橋として、国際情勢や文化への理解を深め、両言語に磨きをかけ、努力していきたいです。

優秀賞



岐阜市立女子短期大学 2年
荒川 紋乃

この度は優秀賞に選んでいただきありがとうございます。日台文化交流 青少年スカラシップを通して、日本と台湾の架け橋として小さな一歩を踏み出すことができました。また、私が伝えたいことを中国語でスピーチできる機会を与えていただけで、大きな自信を持つこ

とができました。今回、優秀賞をいただけたことを、これまで関わってくれた台湾人の友人に報告することができ、心の底から嬉しく思います。今後も引き続き勉学に励み、魅力溢れる台湾についてより積極的に学んでいき、日台友好に貢献ができるように精進していきます。

これからの日台友好のために

日台の平和のために

台湾との出会いから学んだこと

優秀賞



東京中華学校高等部 2年
中田 愛

まず、ありがとうございます。驚きでしたが、同時にとても嬉しく思いました。私は小学校二年生のときから約11年間、中国語を習ってきました。しかし、純日本人で中国語圏への留学経験もないため、どうしても中国語力の伸びには限界を感じざるを得ませんでした。

そんな中、このスピーチ大会で審査員の方に発音をお褒めいただき、賞までいただけたことは私にとってとても自信になりますし、中国語を学び続けようと思うきっかけにもなりました。これからも、このようなスピーチ大会があれば、ぜひ参加したいです。

受賞させていただいた感想

日台で持続可能な社会を築く

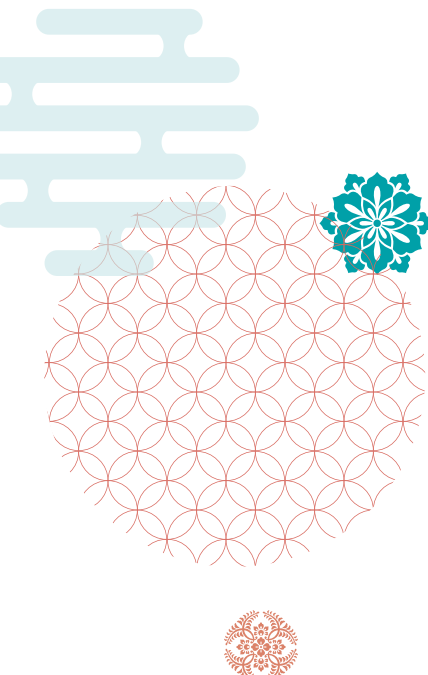
優秀賞



国際基督教大学 3年
河野 港

この度は、スピーチの機会、そして、このような栄誉ある賞をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。留学先の高校で台湾人の友人に助けてもらった経験や大学のゼミでの学習が、私の台湾への関心を深めてきました。

ある時、台湾でサステナブルファッションショーが開催されたことを報じる記事を目にし、台湾のSDGsに対する意識の高さと工夫を凝らした取り組みに感銘を受け、日本も台湾から学ぶべきだと考えました。日台の学生が地球市民として、共に未来の世代のために環境問題の解決に努めていければと思います。





台湾から考える私達の未来

東京大学教育学部附属中等教育学校 2年 黒木大誠

何が正義で、どこからが侵略なのか。

ロシアによるウクライナ侵攻から始まり、今、世界は非常に不安定な状態にある。そして、中国は台湾に対して自らの「正義」を振りかざして飲み込もうとしている。

私が世界の国々の中でも特に台湾について考えるのは理由がある。なぜなら私には二人の伯母があり、その伯母達は二人とも台湾の人に助けてもらったからだ。

1999年9月21日、921大地震。その時、伯母は台中日本人学校の教員だった。日本に連絡も取れず、状況が分からなくて日本から助けに行けない中、台湾の人々に助けてもらっていた。それは感謝という言葉一つでは足りないくらい、物心両面の支援だった。貴重な水や食料までも分けてくれた。『大地震があった現地台湾の人々も大変だったのに、外国人の自分達をも支えてくれた。本当に命の恩人なんだ』と、その後日本に帰国した

伯母はいつも話していた。そして、もう一人の伯母もまた台湾の人々から多くの支援を受けた。

2011年3月11日、東日本大震災。岩手県下閉伊郡山田町立船越小学校の教員だった伯母は学校で子供達と共に、被災した。地域の建物はすべて津波で流され、多くの犠牲者がでた。その中でいち早く支援をしてくれたのが「台湾」の人々だった。なかでも、山田町にある「わかき保育園」は、台湾の人々からの多額の寄付により、「日台きずな保育園」となり、その後の復興の日々で子供達の笑い声があふれる保育園になったとのこと。『本当に、台湾の人々にはたくさんの義援金もいただいたんだ。ありがたかった。』と、話していた。

正直私は、台湾の人々がこんなに日本を助けてくれた理由が分からなかった。なぜ、親切、慈悲、友愛の気持ちで日本を助けてくれたのだろうか？もし、私が同じような状況と立場

になった時、私は、同じようなことができるだろうか？と、自分自身に問いかけてみた。疑問だらけの私は、その時、こつ、決めた。その疑問の答えを探すために、そして、台湾に恩返しをするために、日本と台湾の未来について何ができるか考えてみようと思ったのだ。そこから、私は、恩返しをするためにも、台湾のことをもっと知ろう、今の私は台湾のことも、台湾の人々のことも何も知らなすぎると思い、立ち上がった。なぜなら、これまで、「台湾」は私にとって近くて遠い、知っているようで知らない国の一つだったからだ。

私にも、日本と台湾の発展のために何かできるのではないかと考えた。自衛官である父からは、近代、現代における国家レベル、民間レベルでの台湾と日本との関係を学んだ。そして、今の台湾情勢など父と何度も何度も話せば、台湾の独立が守られるのか、議論を繰り返した。

激論の末に私が出した答えは、机上の空論ではなく、台湾の人々と直接話をしたいということだった。特に、同じ中学生がどうしているか、どうやって「今」を生きているか、どうも知りたい。そして、どういった台湾の未来を見ているのか話し合っていたのだ。

他者を理解し、認め合うことが真の平和につながる。それならお隣同士、もっと仲良く助け合おうことができるのではないだろうか？

友愛の気持ちや助け合いの気持ち。それは、危機に直面したお隣の友達を助けるという、当たり前のように思えるが、なかなかできることではない。尊い気持ち、私が台湾の人達から教えてもらった、大切な気持ち。私はその気持ちを忘れず、私達の未来は、「侵略」と「併合」ではなく、「友好」と「親善」という言葉で結ばれた日本と台湾の関係にしたいのだ。そうすれば、いつか、私の疑問の答えも見つかり、恩返しの方法も見つかるだろう。

14歳の私にできることは小さい。でも、14歳の私達がつくる日本と台湾の未来は明るく大きい世界のはずだ。

私は、いつか台湾へ行き、若い私達が、文化、スポーツ、科学技術、IT、農業、医学、政治、経済、などのそれぞれの分野で、お互いが助け合い、切磋琢磨して、アジアの島国の独立国家として誇りをもって交流していきたい。たくさん、話をしてこれからの日本と台湾の未来を語り合いたい。

そして、その時は、まず初めに、大きな声でこう言おう。

「感謝、台湾、僕の家族を助けてくれて」

優秀賞

天燈の灯りのその先に

横浜中華学院高等部 2年 甲田 愛珠

「台湾の大学に行きたい」そう考え始めたのは、中学二年生のときに体験した不登校がきっかけだった。当時、私が通っていた学校は華僑の小中高一貫校だったのだが、生まれ育った日本の閉塞感や、日本人特有の「二つであるべき」という同調圧力にどうしても馴染めず、「どこにも自分の居場所がない」、そう感じていた。そして「私が安心できる居場所を見つけた」という思いから、まずは日本を出て、新しい環境に移りたいと考えて台湾への留学を決断した。

初めて台湾を訪れたのは、遡ること小学一年生の夏休みだ。私は学校で開催されていた二週間台湾留学に参加した。そのとき、不運なことに大型台風が台湾を直撃したため、街中が暴風雨に見舞われたのだ。建物の玄関口は水浸しで、エレベーターにまで浸水している状態。あちらこちらに街路樹が倒れていた。ところが、そんなことなど気にせず、嵐のような台風の中でも平

気でバイクを走らせて買い物に行く人たちや、「こんなただのスコールと同じだ」と言っていて映画館に行ってしまう人たちを見て、そのエネルギーで力強い姿に心から感銘を受けた。きっと、私が台湾留学を決めた源泉には、あのときの感動があったことは間違いない。

私は無意識のうちに「台湾」に強い好奇心を抱いていた。それから毎年の夏休みを利用して訪問するたびに、ただ街を歩いているだけで何かが起こりそうなドキドキに心が躍り、「どこか日本人とは違う思考回路を持っている台湾の人たち」ともつと関わりてみたい、「この国のことをもっと知りたい」、「幼いながらも心に刻んだこの思いは、今でも忘れることはない。学年が上がることに話せたり聞き取れたりする言葉も増えていき、「你從哪裡來?」「どこからきたの?」「你的中文不錯喔!」(中国語上手だね!)と話しかけてもらうたびに、台湾の温かさが私の全身に刻まれていった。

私は純日本人なので、台湾に親戚がいるわけではないものの、毎年のように行っていると、なぜか途中から「台湾に帰る」という感覚に変わっていった。「おかえり」と言われているような気がしていた。私の華語が通じなくても一生懸命理解しようとしてくれる姿勢や、日本人だと伝えるとつたない日本語を披露してくれて、サービスを弾んでくれるお店の人たち。知らぬ間に私の心のよりどころとなっていた台湾が、ちよつと大袈裟かもしれないが、私に生きる希望を与えてくれたのだ。

無意識のうちに、台湾の人たちの優しさや町の活気溢れる雰囲気、日本にいる私の心までも躍らせてくれたのだ。そして私は見つけ出すことができた。なぜ私が台湾留学を力強く目指すことができたのか?という問いの答えを。

きつと私は、新しい環境に身を投げ入れることが目的だったわけではないのだ。日本人の私でも、下手な華語でも、受け入れてくれた台湾の

人たちの温かさや安心感、そして台湾に「帰る」という意識が、私に新たな居場所を示してくれたのだと気づいたのだ。

台湾に関することがテレビで報道されているところや記事などに掲載されているのを目にすると、なぜか自然と誇らしく嬉しい気持ちが出てしまう。それはきつと、国籍、国境を越えて台湾の優しさが私の中に伝わっている証拠だと思う。私は今、二年後の自分の大学生活を想像するだけで胸の高鳴りが抑えきれない。やつと行きたい大学を決めることもできた。ついに、夢に見た台湾留学を実現しようとしている。これが明確になったとき、私にはまた新たな目標ができた。それは、台湾を未来の自分の出発点にしたいということだ。私は将来台湾にとどまることなく、台湾から世界に羽ばたいていきたいと考えている。台湾に留学することを視野に入れたことがきっかけで、私は世界情勢や各国の抱える社会問題に興味を持つよう

になった。そのため、ダイバーシティが進んだ台湾で学んだ経験を生かして、世界各国に自ら足を踏み入れて、新たな目線からその国の抱える問題に切り込んでいけるような大人になりたいと思っている。

このような思いから、私は「天燈の灯りのその先に」というタイトルを付けた。これは台湾の十份という地域にある平溪天燈をイメージしている。天燈は日本語でランタンを意味し、台湾ではこのランタンに筆で自分の願いを書き、空に飛ばす。私も実際に飛ばしたことがあるが、夜空に向かって無数に飛んでいくランタンの明かりは、とても神秘的な光景だった。まるで、本当に天まで自分の願いを届けてくれるかのよう感じた。当時の感動的な気持ちを思い返して、今こそ私はランタンを飛ばしたいと思った。可能性に満ち溢れた自分の将来と、この先の台湾の益々の発展と繁栄に希望と期待の意を込めたこのランタンを、私は飛ばしたい。



優秀賞

台湾の政治と民主主義

東京大学教育学部附属中等教育学校3年 上野友誠

僕は台湾の政治、社会の在り方に非常に感銘を受けた。僕が台湾の政治に興味を持つきっかけとなったのは、台湾の行政院デジタル担当委員のオードリー・タン氏の著書「オードリー・タン、デジタルとAIの未来を語る」だった。それまで台湾は日本の南にある島で、パイナップルが有名であることや新型コロナウイルスの防疫をいち早く始めた国ということくらいしか知らなかった。この本を読んで新たに分かった台湾の政治の特徴について思ったことをいくつか紹介したいと思う。

1つ目は台湾人の民主主義への姿勢である。オードリー・タン氏は著書の中で「政治は国民が参加するからこそ前に進めるものなのだ」と皆が実感するようになつたと言っている。このような考え方が台湾の人々の中の共通認識として持たれているということ、台湾人の民主主義に対する意識の高さに感動した。台湾の人々が政治や民主

主義を自分事として捉えて考えている証拠で素晴らしいと思う。

2つ目は台湾の政治家が、国民の意見を真に聞いて実行しているということだ。例えば中国とのサービスマ貿易協定の締結に反対する学生が、立法院を占拠したひまわり学生運動があった。学生達が4つの要求を提出したところ、これが合理的だとして立法院に受け入れられた。この他に市民が立法に参加するプラットフォーム「Taiwan」への書き込みが基になり、店内飲食でのプラスチック製ストローの使用が法律で禁止されたことがあった。この2つの事例から台湾の政治家たちが国民の意見や考え方によく耳を傾けて、それを実際に実現させる力がある。政治が国民と共にあるということをよく示している。国民の意見や考えが実際に国の政策に反映されている実感が台湾の人々には強いからこそ、最初に挙げたような民主主義に対する台湾人の姿勢にも繋がっているのではない。

3つ目は政府が国民にとても信用されているということだ。オードリー・タン氏は一連の防疫が成功したことについて次のように述べている。「全民保険カードやフレジックカードによって本人確認を行い、さらに行政機関のデータとリンクさせるというやり方は、ITの活用によって実現したことですが、それは政府と人々との間に信頼関係があったからこそ実現したのです。」政府の政策が国民にとても信頼されているからこそ新型コロナウイルス対策の面でも台湾人の協力を得ることができ、円滑に防疫が進んだのではないかと思う。一方政府が国民に嘘をつかないなど、透明性の高い政治が行われているのも一因だろう。

4つ目は台湾の「Taiwan Can Help」という考えだ。「Taiwan Can Help」とは台湾が「コロナ」に関して解決できなかった問題を国際社会にシェアしようというメッセージだ。「Taiwan Can Help」の根底にあるのは、「自分たちの問題が解決したら他の人を助けてあげよう」という「お互いさま」の精神です。」このように発展や利益、知見を自分の国だけでなく他の国とも共有する精神が台湾にはあり素晴らしいと思った。自国だけが良いのではなく世界で共有し共に発展していくという考えは、戦争の基になる争い事を無くして世界を平和に導く先進的な考え方だと感じた。

僕は生徒会の役員として生徒会と生徒の関わりや生徒会の在り方を考えていた時、台湾の政治の在り方は僕の目指す民主主義像そのものだと感じた。台湾の政治のよ

うに僕も生徒の意見や考え方を詳しく聞き実現できる生徒会を作り上げたい、作り上げなくてはならないと感じた。また僕の学校でクリアできた課題は積極的に他の学校に共有し、共に成長していくことを目指したい。また台湾の自分たちと同世代の中高生が、政治についてどう思っているのか知りたいと思う

た。それは単に台湾の中高生と仲良くなりたいたいということでもあるが、日本の低い投票率を改善するヒントになると思った。僕は台湾で民主主義や政治について学んみたいと思った。そして、オードリー・タン氏のような民主主義を守る人物になりたいと思った。

た。それは単に台湾の中高生と仲良くなりたいたいということでもあるが、日本の低い投票率を改善するヒントになると思った。僕は台湾で民主主義や政治について学んみたいと思った。そして、オードリー・タン氏のような民主主義を守る人物になりたいと思った。

た。それは単に台湾の中高生と仲良くなりたいたいということでもあるが、日本の低い投票率を改善するヒントになると思った。僕は台湾で民主主義や政治について学んみたいと思った。そして、オードリー・タン氏のような民主主義を守る人物になりたいと思った。

優秀賞

私の幸福路の上で

東京大学教育学部附属中等教育学校2年 勝又みひろ

私には記憶もないほどの昔から家族で通っている台湾料理屋がある。蒸し鶏、ビーフン、麻辣麵：台湾出身のご家族が経営するこの店は、間違いなく私の味覚の形成に大きな影響を与えただろう。そんな理由から、台湾という場所には幼いころから親しみがあつた。しかし、いまだに台湾に行つたことは無い。この文章を書くにあつて、まずは台湾の文化に触れてみようということで、自分の好きなアニメーションに手を付けてみようと思つた。そうして出会つた作品が「幸福路のチー」だ。台湾で作られたアニメ映画で、東京アニメアワードで大賞を取つた他、世界中で高い評価を受けている。

祖母の死をきっかけにアメリカから台湾に帰省した主人公、チーが自分の半生を振り返りながら未来へと進む物語が美しい水彩風のタッチで描かれる。家族との思い出や進路の迷い、故郷との別れなど、普遍的なテーマの裏には

台湾の現代史が深く関わっており、戒厳令下の時代、921大地震、ひまわり学生運動など、台湾の激動の時代をチーの人生を通して描いた作品でもある。今人生に迷っている人にとって勇気を与えてくれる作品であると同時に、台湾の現代史を学ぶ上でも価値のあるものだ。

この物語の特徴は、登場人物が様々な立場でそれぞれ問題や悩みを抱えていることだろう。時代の流れに揉まれながらそれでも必死に生きている。私は、チーが昔夢を語り合つた友人へ言う「結局、誰も夢を叶えられなかつたね」というセリフが好きだ。それぞれ自分なりの道を見つけた上で、幼い日の純粹な夢を振り返る。確かに夢を叶えられなかつたが、そこに後悔は無く、ただ人生の二ページを懐かしむようなこの言葉が深く心に刺さつた。

この作品の原題は「幸福路上」(On Happiness Road)。きこと

人は誰でも自分の幸福路の上で迷いながら、幸せを求めて歩いていくのだろう。その途中の失敗や迷いも悪いものじゃない、そう思えるような優しい作品だつた。いい作品に出会つた時、もっと早く出会いたかつたと思うものだが、この作品は今、ちょうど人生に迷っている中出会えてよかつたと思つて思う。「幸福路のチー」は私にとっても大きな影響を与えた。映画の中で見たなぜか懐かしくなるような景色を、いつかこの目で見てみたい。

日本と台湾の共通の文化として、ゲームやアニメなどのサブカルチャーは欠かせないだろう。「幸福路のチー」の監督も嬉しいことに日本の大学を卒業された方で、日本の作品に影響を受けているという。確かに日本のアニメ映画のような雰囲気を持ちながら、それを唯一無二の世界観に見事に昇華していると感じた。また、台湾初のリズムゲーム「Deemo」と

いう作品がある。この作品はリズムゲームの枠を超えた世界観が世界中で反響を呼び、日本で映画化もされた作品だ。こうして互いの文化が互いに影響を与え合うことで、より良質な作品が増えていくと私は思っている。今後も様々な面から台湾の文化を楽しんでいきたい。

日本と台湾の関係を語る上で欠かせないのは、東日本大震災の際の義援金に関してだろう。日本にいち早く多額の寄付をしてくれた。熊本地震の際の支援や、大量のマスクの提供なども記憶に新しい。優しく親切で魅力的な文化を持った隣人と、末永く良好な関係が続くことを祈っている。

昔世界中をバックパッカーとして旅していた母に話を聞くと、台湾に行つた時のことを今でも鮮明に覚えているという。会う人会う人全員が親切で、漢字で筆談をしながら色んな話をしたらしい。私もいつか台湾を訪れた時、一生

の思い出になるような旅がしてみたい。

台湾といえば、様々な先住民族が織りなす多様な文化、賑やかな夜市であつたり、おいしい料理であつたりと、そついったところが目が行くが、その裏には苛烈な歴史があり、そして今も重要な岐路に立っている。そんな隣人に対して何ができるのか。そついった視点を持ちながら、また台湾に触れていきたいと思う。



優秀賞

目に見えない日本と台湾のつながり

東京大学教育学部附属中等教育学校2年 金谷 春輝

私の祖父は1931年に台湾の台北の亀山というところで生まれ、1943年、終戦の2年前に日本に帰ってきました。また、私の曽祖父は台湾で働いていました。

ました。当時、曽祖父は台湾で紅茶の工場で働いていたそうです。私はこのことが気になったので、調べてみました。

当時の台湾は日本に統治されていたことを「日本統治時代の台湾」と呼びます。1895年に、日清戦争後の下関条約によって、台湾が中国から日本に割譲されました。その後、第一次世界大戦が終

台湾で紅茶が作られるようになった年は詳しく分らないそうです。ただ、本格的に作られるようになったのは、1903年だそうです。この年は、「安平茶業試験場」という紅茶の試験をする場所が開設された年です。その7年後の1910年には横浜の砂糖王と

結し、中国が台湾を管轄するようになる1945年までの時代のことです。台湾ではこの時代のことを「日治」と呼ぶそうです。

呼ばれた実業家が「日本台湾茶業株式会社」を設立したそうです。私はこのことを知り、1910年代、台湾は日本に統治されていたとはいえ、商業で強い結びつきがあったことに私は驚きを受けました。この工場で作られた紅茶は品質も良く、輸出も多く行われていたそうです。しかし、ロシアの革命などで生まれた安い紅茶などに太刀打ちできなくなってしまう、輸出の停止を余儀なくされてしまったそうです。

私の祖父と曽祖父なのです。そして、私の母にそのことを詳しく聞くと、曽祖父の話をしてくれ

父は三井合名で働いていたそうです。その三井合名の計画によって、曽祖父は台湾に行くことになったそうです。三井合名は1899年から台湾で紅茶の製造を行っていた会社のことです。もちろん今も存在する会社のことです。当時三井合名は1899年から台湾の台北の海山桃園の大溪などで大規模な茶園を開拓して、製茶興行を開始していたのです。

その名前が特徴的な「桃園」という名前に興味を持ったので次に私はそれについて調べてみました。先ほども書いたように桃園の大溪というところに三井合名が「旧名角板山工場」という工場を建て、「日東紅茶」を生産していたそうです。日東紅茶は今でも日本で売られているとてもメジャーな紅茶だそうで、私はこの会社の紅茶がお気に入り、今でも飲んでいます。私のお気に入りの紅茶が台湾発祥で、100年以上前に曽祖父と祖父が台湾で働いていた会社の

紅茶を飲んでいるのだと思うと感慨深いです。しかし、現在の日本人で「日東紅茶」が台湾発祥であることを知っている人は少なく、残念に思います。

ただ、当時の日東紅茶の生産は1956年に大火に襲われ、1959年に再建されたものの、すでに全盛期は終わっており、1995年に生産は停止されてしまったそうです。

その後、その工場は使われることなく、放置されていましたが、最近の子供連れが来るような観光地として整備されたそうです。当時の歴史を感じられるようになっていくらしく、私も行ってみたいと思います。

そして、私の曽祖父が働いていたであろう三井合名の全盛期についても調べてみました。

三井合名は日本による台湾の統治が始まってからすぐに台湾の産業調査を行っていたそうです。その日本が台湾を統治するようになつた13年後、1908年に台湾支所

を設立、1926年に今と同じ日東紅茶という名前を生産を活性化していったそうです。その「日東紅茶」という名前は当時の世界紅茶市場を独占していた「リプトン」を追いかけるとい意味で発音がよく似た「リットウ」になり、適切な漢字として「日東」が選ばれて「日東紅茶」という名前になったそうです。

私はこの作文を書き、今まで知らなかった日本と台湾のつながりを感じる事ができました。また、私の曽祖父が台湾発祥の「日東紅茶」を作っていた一人であることも今回初めて知り、驚きを受けました。

自分にはまったく関係がないと思っていた台湾と中国の諸問題も私に関係がないなということは全くないということを認識する事ができました。

今後はテレビで台湾のニュースなどを目にしたときは、祖父や曽祖父のことが頭に浮かぶようになると思います。



優秀賞

言えなかった言葉

新潟県立大学 3年 青谷 樹衣

「こは本当に台湾なのだろうか。目の前には驚くほど美しい自然が広がっていた。台湾留学が始まり2か月ほどたった頃、私は留学先の大学が主催するルカイ族の文化体験ツアーに参加していた。目的地の屏東霧台神山部落に向かう中、バスの窓から見たのは、台湾の眩い太陽に照らされた深い緑青色の山々と雲一つない青空だった。これまで、台湾といえば早朝から阿公と阿媽の活気のある声が聞こえる市場、仕事終わりの人々が家路を急いで一斉にバイクを飛ばすあのけたたましい爆音、夜は台湾語の懐メロを歌い、街中にはネオン看板や夜市が立ち並びという賑やかなイメージがあった。だからこそ、山と海に囲まれた屏東をみて、自然豊かな景色だけでなく活発な都市とは違ったこの土地の透き通った空気と自然の音にとても驚いた。

い族による歓迎の儀式だった。私も衣装を着せてもらい、自然の中で伝統の踊りのステップと一緒に踏むと、彼らの熱気を充分に感じる事ができた。その後も肉と乾燥させたタロイモを自ら現地採集した月桃の葉で包んだ伝統料理を作る体験をしたり、ルカイ族の装飾品として欠かせないビーズで作る手作りアークセサリーを制作したりと、様々な面からルカイ族の文化に触れた。

なかでも印象深かったのが、スカジュールの最後に用意された魯凱族文物館ツアーでの出来事である。そこではツアーガイドのルカイ族女性が部族伝統の建築様式である石板建築の家屋や様々なオブジェから部族の階級制度や歴史を解説してくれた。

解説が一通り終わった後、このガイド女性とお話する機会があり、その時、彼女が首から下げていた花の蕾を模った装飾品に偶然目が留まった。精巧な作りをした錫のような素材とビーズから成るそれは、彼女の落ち着きがありつつも揺るがぬものをもつ雰囲気と相まって本当に美しく見えた。すると、彼女は私の視線に気づき「あなたもつけてみる？」と声をかけてくれ、その首飾りを「私の母がくれたものなの」と言いながら私の両耳に器用に付けてくれた。

しかし、そこで事件が起る。私が少し身を屈めた瞬間、片耳に掛かっていた飾りが地面へ落ちてしまったのである。そして、私が拾おうとするよりも早く彼女が飾りを拾い、悲しそうな表情を浮かべつつ大事そうに撫でた。そして彼女は悲しみの混じった笑顔を葆ちつつ、今度は落ちないようにと先ほどよりもしっかりともう一度私の耳に飾りを掛けてくれたのである。その指先からは、彼女の力が伝わってきた。

予定されていたスケジュールも終わり、家に帰ってから、翌日になっても私は飾りを貸してくれた彼女の悲しそうな顔が忘れられなかった。そこで私は、図書館でルカイ族についての資料を探し、同ツアーに参加していたルカイ族の学生に装飾品の持つ意味を尋ね、自分なりにその由来を調べてみることにした。

結果分かったのはルカイ族にとってあの装飾品は少女の象徴であり、未婚の少女だけがつけることを許されるものであるということだった。この特性のため、おそらく結婚した彼女は現在のあの装飾品を首飾りとして使い、私には耳飾りとしてつけてくれたと推測される。つまり、彼女にとつてあの首飾りは母の手作りで、少女だった頃から結婚するまで、そして今に至る彼女の人生にずっと寄り添ってきた大切な思い出の品だったのだ。この時私が気づいたのは、相手の文化を知ろうとする際には受動的なだけでなく主体的にも知ろうとする姿勢が必要だということである。特に先住民、閩南人、客家人など様々なルーツが混じり合った台湾という国では、多様な文化に触れる機会が多い。留学中にこれらの台湾文化を受け身で学んでいたことに気づいた私は、この時から自ら本を読み、先住民を取り上げた授業にも目的をもって挑むようになっていった。ルカイ族のガイドの彼女との経験を惜しい経験のまま終わらせたくないと考えたからである。

このように、主体的に学びつつ見えてきたのは先住民たちが自身の文化やアイデンティティを必死に守ってきたこと、しかしこれらの先住民が保ち続けてきた文化が消えつつある現実とその事実を乗り越えようとする台湾の人々の物語であった。多様性の象徴としての先住民という外から見える肯定的なイメージの裏には先住民・台湾人の犠牲と努力があったのである。そのことを学んだことで、私は更に台湾の多様な複雑な文化について理解が深まったと感じた。そして、台湾の多様な文化を守るために何ができるかを考えるようになっていった。

今は、いつか霧台にもう一度訪れてあの時のガイドさんに会いたいと思っている。今度は相手を知ること、積極的に自分となり、彼女にあの時言えなかった言葉と自分が変わるきっかけをくれた感謝の気持ちを伝えたい。



優秀賞

台湾を学ぶ、日本を学ぶ

鹿児島県立大島高等学校 1年 福田 笑心

「台湾」この国に初めて興味を持ったのは、小学3年生のときだった。ある映画を観たときに、台湾がモデルの一部だということを知り興味を持った。そこから台湾について調べてみると、中国語とは別に台湾語があることや下関条約によって日本に割譲された過去を知った。初めて学ぶことが多く、自分が非常に小さな人間に思え、それと同時にもつと周りに目を向けていこうという思いが生まれた。

そして高校生になり、台湾の同年代の子たちとオンラインで交流できる機会があると知り、すぐに申し込んだ。台湾生と交流をしてみず感じたことは積極性の違いだ。英語での交流だったのだが、無言が続く私たちに対して、台湾生はおすすめの場所を教えてください、質問をしてください、会話を広げてくれた。そのおかげで、私たちも少しずつ会話を広げていくことができた。

何度かあった交流の中で、一番盛り上がった話題は日本のアニメについてだ。日本のアニメが他国でも人気なことは知っていたが、相手の熱量には非常に驚いた。みんなにも日本のアニメが愛されているのだと知り嬉しかった。そして、気づいた。私が小学生のときに映画を通して台湾に興味を持ったように、日本のアニメを観て日本に興味を持ち、日本の文化や歴史を学ぶ人たちがいる。そして、こうして違う環境に住んでいる同じ世代の人たちと交流をするこ

とで、さらにその学びを広げる。これは、お互いの国を理解するきっかけの一步となる非常にすばらしい機会だと感じた。また、この活動では互いの国の環境問題について交流をする場もあった。台湾生は、海のゴミ問題について述べた。海岸に漂流する海洋ゴミが問題になっているという。しかし、ペットボトルをサッカークのユニホームに変える取り組み

みが行われたり、街中に衣類のリサイクルボックスが置かれたりするなどリサイクルに積極的な国だということも知った。これに関連して、私が住む奄美大島も海洋ゴミが問題になっている。海岸清掃をすると、日本語表記ではない

多くのプラスチックゴミが見つかる。私は、この景色を見ると残念な気持ちになる。だが、これと同じような状況が台湾でも起きているということだ。台湾の人たちも、私と同じような思いをしているだろう。この問題は、私たちが抱えているのではない。海は、台湾と日本だけではなく世界中とつながっている。自国だけが抱えている問題ではなく、他国の環境問題へも互いに影響している。自国中心的に考えていては、きつこの状況は変わらない。台湾の海を、日本の海を、そして世界の海を守るためにも立ち止まっては

いけない。これらを踏まえて、今私には目

標がある。

それは、各国の海岸の状況を実際に見に行き、ゴミ拾いなどのボランティア活動をするだけなくSNSを駆使し、多くの人に現状を伝えていきたい。その行き先として、まずは台湾へ行きたい。実際に目で見ることが絶対にあるはずだ。台湾生との交流を通してこう思った。人生は、様々なことを学ぶことにより豊かになっていくであろう。台湾と日本、そして世界の架け橋となる人になれるように、これからも学びを深めていきたい。

優秀賞

日台音楽交流

鎌倉学園高等学校 3年 鈴木捷方

私は今春、中高一貫校を卒業し、大学に進学する予定だ。中学・高校の六年間を振りかえると、一番の思い出は台湾との出会いである。私は現在、龍山寺のお守りを身につけ、受験勉強をしている。

私は吹奏楽部に所属し、トロンボーンを担当していた。中学2年生の時、顧問の先生から「日本ツアー2018」のために来日する台湾蘭陽印象楽団と宜蘭青少年団楽団が、ツアーの最終日に私たちの学校を訪れ、公演と合同演奏会を開催してくれることが伝えられた。

私はそれまで台湾の音楽を聴いたことがなかったので、とても楽しみだった。そして同時に、言葉が通じないのに一緒に演奏できるのだろつかと不安になった。他の部員たちも同じ気持ちだったが、先生の指導の下、合同演奏会に向けて毎日一生懸命練習を続けた。

台湾蘭陽印象楽団と宜蘭青少年団楽団の日本ツアーは好評を博し、4日間の日程を終え、予定通り

に私たちの学校を訪問してくれた。

最初に台湾の伝統民族楽器での演奏を聴かせてもらった。どの楽器も初めて見るものばかりで、とても興味深かった。演奏してくれた曲は、伝統的でありながら現代風にアレンジされていて、とても素晴らしいと思った。私はすっかり台湾の音楽に魅了された。

その後、私たちは彼らと合同演奏会を行った。お互いの言葉も分からず、リハーサルもなかったのに、も関わらず、指揮者がタクトを振り上げた瞬間、私たちの心は国境を越えて一つになった。彼らは日本の人気歌手の曲やアニメの主題歌を練習してきてくれたので、とても楽しく演奏することができた。

最後に私たちは、台湾の方々のご厚意で、台湾の伝統楽器を体験させてもらえることになった。私は美しい音色が気に入ったので、胡琴を弾かせてもらうことにした。言葉は通じなかったが、胡琴奏者は、身振り手振りで私に胡琴の弾き方を教えてくれた。そのおかげで、

初心者の中でも音を出すことができ、とても嬉しかった。しかし、私は台湾語が話せず、「謝謝」という一言しか言えなかった。いつか彼らに再会したら、もつと話ができるように勉強したいと思う。

「日本ツアー2018」を成功させ、彼らは帰国した。そして私は、夏休みを迎え、九州の祖父の家にいった。祖父に台湾の楽団との交流の話をして、自分も日本の伝統的な楽器を演奏して台湾の人に聴いてもらいたいと言ったら、祖父が自分の尺八を私に譲ってくれた。祖父に習いながら、早速練習を始めた。私が日本の伝統楽器に出会えたのも、台湾の人たちのおかげだと思っている。

その年の冬休みは、家族で台湾旅行に行った。龍山寺でお参りをしたり、士林夜市で台湾グルメを楽しんだりして、私たち家族は台湾が好きになった。翌年も家族旅行の行き先は台湾で、これから毎年行こうと話していた矢先に、新型コロナウイルスの感染が拡大し、

海外旅行をすることは難しくなっていました。

その後は、休校や自粛生活が続き、部活動もできなくなってしまった。そのまま高校3年間で過ぎ、私は台湾との良き思い出を胸に大学入試に向けて受験勉強をしている。勉強が辛くなったときは、演奏会のパンフレットや台湾で買ったお土産を見て、自分を鼓舞している。

私は晴れて大学生になったら、アルバイトしてお金を貯めて、台湾に留学したい。そして、台湾蘭陽印象楽団と宜蘭青少年団楽団の演奏をもう一度聴きに行きたい。もし、彼らと再会することができたら、「日本ツアー2018」で私たちの学校に来てくれたことへのお礼の気持ちを伝えたい。また、私も尺八を持参して、今度は私が日本の伝統的な音楽を台湾の人々に紹介して、日本文化を伝えたい。

私の夢は、音楽を通して日本と台湾の友好関係をより強いものにしていくことだ。共通の趣味を通

じた草の根交流は、小さな一歩かもしれないが、そこから大きな友情を育てていきたいと思う。

2011年の東日本大震災の時、私は6歳だったが、とても怖かったことを覚えている。後から、台湾の人々が多額の義援金や炊き出しなどのボランティアで日本を支援してくれたことを知り、感謝の気持ちでいっぱいになった。その背景には、1999年に台湾中部で起きた地震の際、日本が阪神淡路大震災の経験を活かし、台湾を支援したということを知った。その後、日本と台湾は互いに災害支援を行い、友好関係が続いている。

現在、私たちを取り巻く世界には、災害や紛争など、さまざまな不安要素がある。しかし、私たち日本人はこれからも良き隣人である台湾の人々と協力し助け合い、いかなる困難も乗り越えていけると信じている。そのためにも、私たちが若い世代が日台交流を深めていくことが大切だと思う。



客家與我

横浜中華学院高等部2年 溝口璃温

每個國家都有不同的族群，臺灣有漢族、客家族群、閩南族群、原住民族等；日本有愛努族、琉球民族等，每個人都有獨特的「身分」和「背景」。

我就讀的橫濱中華學院是日本第一所臺灣系華僑學校，這所學校有很多傳統文化課程，例如：舞龍舞獅、民族舞蹈、功夫等等，我從小與學長姐們學習各種傳統文化，也讓我開始想追尋自己的根。

有次，居住在新加坡的親戚們來日本拜訪我們，那時候我聽到不是英文也不是普通中文的語言，我好奇地問他們講的是什麼話，我那時才知道他們說的是「客家話」。親戚們跟我說，我們家族是客家族群，我從那時起對客家產生了興趣，除了自己搜尋資料外，還問了我的爺爺。

爺爺告訴我，我們的祖先為了躲避戰亂，而從自己的國家逃到了新加坡。但那時新的生活並不穩定，所以一部分的家族成員便搬到了日本橫濱，其中一位就是我的曾

祖母。雖然移居到海外，但我的家族一直努力保護及繼承著客家精神，這樣的精神讓我很有感動，也讓我學到不管遇到什麼困難，也不要輕易放棄自己的信念。同時，從小接觸的客家傳統文化傳承下去。

在我原有日本出身的背景下，又多了個客家血統的背景，現在所就讀的橫濱中華學院也有很多機會可以接觸到臺灣和客家的傳統文化，因此我想將這個文化和傳統傳給下一個世代，同時希望能有機會到臺灣親身體驗客家傳統活動，更期待未來的我可以成為連接臺灣與日本的橋樑，將客家與臺灣的獨特之處傳遞到日本各地。

客家と私

それぞれの国にはそれぞれ違った部族の群れがあります。台湾には漢人、客家、閩南、福建地区、原住民族など。日本にはアイヌ族、日本民族、琉球民族などあり、それぞれ一人一人違った固有の「身分」と「バックグラウンド」をもっています。

私は日本にある台湾学校、横浜中華学院で学んでいます。この学校には龍舞、獅子舞、民族舞踊、カンファなどのたくさんの伝統文化があります。私は幼少の時から先輩方からそれぞれの伝統文化を学んでいます。さらに、それぞれの伝統文化を学ぶことにより自分のバックグラウンドに興味をもちました。

ある日、シンガポールの叔父が日本に遊びに来て、その時、私は初めて英語でも中国語でもない言葉を耳にしました。私は何語だろうと不思議に思い叔父に聞いてみました。その時初めて、その言葉が客家語だと言ったことを知りました。叔父から私達家族は客家民族だと聞いて以来、客家

に対して興味をもちました。それ以来客家について色々調べ、その後祖父にも聞いてみました。

元々、私の祖先是戦乱を避けるために、自国を離れシンガポールへ移りました。しかし、シンガポールへ移り住んだ後も安定することはなく、一部の家族は日本の横浜にも渡りました。その一部の一人が私の曾祖母にあたります。

私の祖先是戦乱を避けるために自国を離れ色々な国に移り住み、各々の場所で客家の伝統文化を継承し守り続けてきました。私はその精神に感動し、例えばどんな困難に遭遇しても、自分の意志を諦めることなく、幼少期から学び続けている客家の伝統文化を継承していきたいです。

私は日本で生まれましたが、客家の血も受け継いでいます。そして今現在横浜中華学院で学ぶことにより沢山の台湾と客家の伝統文化にも出会い触れることができ、台湾客家の特色や体験をまた一つの世代にも継

承し、将来は台湾と日本の伝統を受け継ぐ架け橋となり、客家文化の特徴を日本各地に広めていきたいです。

優秀賞

臺灣交流帶來的魅力

岐阜市立女子短期大学 2年 荒川 紋乃

對你們來說，臺灣是什麼樣的存

在？對於很多日本人來說，臺灣是旅遊景點中很受歡迎的觀光地。同樣地，對於很多臺灣人來說，日本也是很有人氣的觀光地。不過對我來說，臺灣不僅僅只是旅行的地點，更是像日常生活中那般貼近身邊的存在。

我這一年透過網路認識了很多臺灣人。在和新認識的人打招呼時，許多臺灣人肯定會問我：「妳為什麼學習中文？」而我都回答說：「因為我喜歡臺灣。」但是每次被問到這個問題時都會讓我很久，因為我喜歡臺灣的東西太多了，很難用一句話來概括。我也會問臺灣人：「為什麼在學習日語？」而他們所有人的共通點是都會回答：「因為喜歡日本。」我們在網路上談論了很多關於臺灣和日本的話題，也分享了彼此的日常生活。

其中有位台灣朋友令我印象深刻。她很喜歡日本的動畫和音樂，所以我和她聊得很開心。她總是說著她喜歡的東西，是個非常熱情的女生。聊天的過程中，我發現她可能比我更瞭解日本。我問她：「妳為什麼對日本這麼瞭解？」她回答說：「因為比起臺灣，我更常看日本的東西。」我很驚訝竟然有臺灣人對日本這麼瞭解。她推薦我一些日本的動畫，同時我也向她推薦了我喜歡的臺灣音樂，她也喜歡那些音樂。我們不僅分享自己國家的文化，還互相介紹對方的文化，因而成了關係很特別的朋友。我們感覺彼此的距離越來越近，以至於忘記我們其實從沒見過面。如果真心地想去瞭解對方的文化，即使是網路上的邂逅也能使人們跨越國界拉近距離。網路對我們來說成為了建立民間交流的重要工具。

東西。」我很驚訝竟然有臺灣人對日本這麼瞭解。她推薦我一些日本的

動畫，同時我也向她推薦了我喜歡的臺灣音樂，她也喜歡那些音樂。我們不僅分享自己國家的文化，還互相介紹對方的文化，因而成了關係很特別的朋友。我們感覺彼此的距離越來越近，以至於忘記我們其實從沒見過面。如果真心地想去瞭解對方的文化，即使是網路上的邂逅也能使人們跨越國界拉近距離。網路對我們來說成為了建立民間交流的重要工具。

像這樣，日臺交流不僅能促進對方國家文化的理解，還能更深入地理解自己國家的文化。我雖然還沒有去過臺灣，但是對我來說，溫暖的臺灣朋友、音樂、電影、美食等，這些東西都可以在我的日常生活中體驗到。多虧學了中文，我的興趣變多了，並給生活增添了更多色彩。這就是我認為日臺交流最大的魅力之一。

夢想著有一天能見到臺灣的朋友，從此以後也會繼續學習華語和臺灣話。為了讓我們的民間交流成為日臺友好的橋樑，我們將更加努力地學習臺灣文化。感謝您的聆聽。

台湾との交流がもたらす魅力

あなたたちにとって、台湾とはどんな存在ですか。多くの日本人にとって、台湾は旅行先として人気の観光地です。同時に、多くの台湾人にとっても、日本も人気のある観光地です。しかし、私にとって台湾は単なる旅行先ではなく、日常生活と同じくらい身近な存在なのです。

私は、この一年インターネットを通じて多くの台湾人と知り合いました。初対面の人に挨拶する時、必ずといっていいほど、多くの台湾人が、「なぜ中国語を勉強しているの?」と私に尋ねます。私はその都度、「台湾が好きだから」と答えています。しかし、その質問をされる度、深く私を考えさせるのです。なぜなら、好きなものが多すぎて一言では言い切れないからです。私も同様に、毎回台湾人に「なぜ日本語を勉強しているの?」と聞きます。そして、彼ら全員に共通しているのは、「日本が好きだから」ということでした。私たちは、オンラインを通して彼らと台湾と日本について沢山の話題を話し、お互いの日常を共有しました。

私はその中でもかなり印象に残っている。ある台湾人との出来事があります。彼女は、日本のアニメや音楽などがとても好きで、私は彼女との話がすごく弾みました。彼女はいつも、日本の好きなものについて話してくれ、とても熱狂的な子でした。話の途中で、恐らく彼女は私よりも日本

のものに詳しいかもしれないことに気づきました。私は彼女に、「なんでもなんにも日本のことに詳しいの?」と聞きました。彼女は、「台湾のより返答しました。私は、日本のことをそんなに詳しい台湾人がいることに驚きました。しまいには、私は彼女から、日本のおすすめのアニメを教えてくださいました。また、私も彼女に私の好きな台湾の音楽を勧め、彼女もこれをとても気に入ってくれました。私たちは、自分の国の文化を共有するだけではなく、お互いの文化も紹介し合う、特別な関係になったのです。私たちは、まだ実際に一度も会ったことがないことを忘れるほど親しみを

感じました。たとえば、オンライン上で知り合ったとしても、もっと相手の国の文化を知りたいという強い思いさえあれば、国境を越えて距離を縮ませることができのです。インターネットは、私たちにとって民間交流を繋げてくれる大切な道具となりました。

このように日台交流は相手の国の文化の理解を促進するだけでなく、これまで気づかなかった自分の国の文化も、より深く理解することができるのです。私は、まだ台湾に行ったことがないですが、台湾の温かい友人、音楽、映画、グルメなど、私の日常生活でも体験できるのです。中国語のおかげで私の趣味の幅が広がり日常生活にも彩りを与えてくれました。これこそが、私の考える日台交流の最大の魅力の一つなのです。

いつか台湾の友人と会えることを夢見て、これからも中国語と台湾語の学習を続けていきます。私たちの民間交流が、日台友好の架け橋となれるように、もっと台湾文化の勉強に励んでいきます。ご清聴ありがとうございました。



優秀賞

未來我能為世界所做的貢獻

関西学院千里国際高等部 3年 田村夏琳

2022年8月4號，我站在故鄉—台灣的海灘上。

一眼望去，盡是湛藍的海水、銀白色的波浪與碧藍色的天空。

在我身後，則聳立著翠綠色的山脈。

每當一波波的白浪花拍打沙灘，海水推動著碎石，發出奇特的滾動聲響。

海平面像是撒滿碎了一地的玻璃屑，反射著太陽強烈的光芒，明晃晃的。

帶著鹹味的海風緩緩地吹拂臉龐，輕輕地撩起我的頭髮，讓人感到無比的安詳、平靜。

台灣東部海域遭導彈威脅的那一天、那一刻，離我僅百公里之遙。然而我非常確信，暴力脅迫是沒有辦法摧毀我和當地人之間的交流及文化的。

因為對我來說，和平應當存在於日常生活中許多不經意的平凡當下裡。

與家人和朋友的相處，和當地人開心談天說笑，凝視壯闊的大山大海

以和平建構出每個我所珍惜的

現實世界。

如同大海之遼闊包容，藍天之浩瀚無邊。

我們應該師法自然，不讓仇恨之牆阻隔了彼此的溝通與交流。

跨越國籍與民族的界限，我是在許多人的關愛和呵護中長大的。

為子孫們打造一個不必擔憂戰亂的未來世界，是我此生應肩負起的責任。

為了達到這個目標，我需要更深入地了解世界的歷史，從各種經驗中萃取所需的知識。

例如，廣泛閱讀歷史書籍，鑑古得以知今。在學校多與不同國籍的同學交流，從中理解他們的歷史與價值觀。將來有能力時，我更希望自己能環遊世界，親身體會每個國家、每個城市的風土民情與文化底蘊。

藉由以上各種方式，讓自己能更客觀地以多面性的角度去看待事物，避免以偏概全，面對當前世界上的眾多紛擾能保持初衷、堅定立場並盡一己之力使其更好。這就是我能為這世界的和平所做出的貢獻。

私が将来この世に貢献できること

2022年8月4日。私は故郷の台湾の海にいました。

視界には一面のコバルトブルーの波。背後には翡翠色の山脈。

打ち寄せる波の引き際に丸い小石が奏でる不思議な音色。抜けるような青空の下、洋上はどこまでもギラギラと眩しく輝きを放ち、向こうからの生暖かい風と潮の匂いは鼻腔をくすぐり、それは私を懐かしく優しい気持ちにさせました。

その日、私が泳いでいた東海岸からおよそ100キロの地点にミサイルが落とされた瞬間。

しかし、そこにいた私と地元の人たちの言葉や文化までは誰にも決して壊すことができないのだと確信しました。そこでは国など関係なく皆が皆、お互いを仲間として接するのです。私にとって家族や友達、そこにある美しい海と山々こそが、かけがえのない現実なのです。

海に境界線が無い様に、空がどこまでも空である様に、私たち人間に

も憎しみという壁があってはならないのです。

平和は日常の何気ない瞬間に存在します。

私の生きる現実の世界とは、そのかけがえのない瞬間そのものなのです。

私はこれまで国という概念を超えて、たくさんの人々からの愛情を受けて育ちました。

それらの人々が愛着をもって暮らしている街や文化、全てを尊び、学び、知ることが大切なのです。

私には我々の子孫が世界を憂う未来を創ってはならないという使命があります。

そのために、歴史書を読んだり、学校で異なるバックグラウンドをもつ生徒と交流し、彼らの歴史や価値観を学びます。また違う国に足を運び慣習や文化を体験することで、異なる価値観を理解し客観的に捉える力を養います。

世界の歴史をより深く理解し、より多くの経験から学び、それぞれの

情勢に対し自分の意見をしっかりともつことこそが私の使命である平和の為の貢献です。

優秀賞

向台灣學習…與政治更接近

青山学院大学 4年 鈴木 颯子

「你能不能告訴我日本政黨的特色？」，突然被問這個問題，能順利說明的日本人有多少呢？說實話，我自己也沒自信能答得出來。透過跟台灣朋友交流，我最震驚的就是他們對政治都很有興趣。他們總可以很輕易地、熱心地對台灣政黨的特色、社會風氣表達自己的意見。

在日本，對台灣二分法的看法較多。比方說：「國民黨親中反日、民進黨親日反中」。據此，可以說如果國民黨掌握政權，台日關係會變得窒礙難行；相反地，民進黨繼續執政的話，兩國關係會更上一層樓。不過，真的那麼單純嗎？其實，國民黨執政時期也締結了不少台日協議，深化了交流。

我問過一位21歲的台灣朋友關於日本對台灣政黨有點偏頗的看法，她回答：「基本上，台灣人也有類似的看法。可是近年無論哪個政黨，都以經濟利益為優先，加上台灣經濟須依靠中國，是不爭的事實。所以我都是選人不選黨，跟我一樣的人也很多。」

我以為台灣年輕人都會毫不猶豫地支持民進黨，所以她的意見對我來說很新鮮。

還有另一個朋友在選舉時，專程為了投票而從日本回台灣。多數日本人對投票並不積極，所以我很驚訝。同時強烈地感覺到，日本應把參與政治的門檻降低，並從自己感興趣的地方開始關心起就好。

向台灣學到的這些事物，讓我想更正確地理解台灣政治，貢獻於台日關係的發展。為了實現這個目標，我將在9月到台灣的研究所學習台日政治。我很期待親眼觀察真正的台灣！

台湾に学ぶ政治をもっと身近なものに

「日本の政党の特徴を教えてください」と突然聞かれて、スムーズに説明できる日本人はどれほどいるだろうか？正直私は自信がない。台湾人の友達との交流を通して、一番衝撃を受けたのは、彼らの政治への関心度の高さだ。彼らは政党の特徴や、社会の風潮、それに対する自分の意見を、とても簡単に、そして熱心に説明してくれた。

日本では、台湾に対して二分法的な見方が多い。例えば、「国民党は親中反日で民进党は親日反中」など。この見方に則ると、国民党が政権を握れば日台関係は進展しづらくなるし、民进党政権が続いた場合、両国の友好関係はさらに深化する。しかし本当にそんなに単純なことなのだろうか？ 実際、国民党政権時にも、多くの取り決めが締結され、日台間の交流は深まっている。

このような日本の台湾に対するやや偏った見方についてどう思うか、21歳の台湾人の友達に尋ねると、彼

女はこう答えた。「基本的には台湾でも、同じようなイメージがあるよ。でも近年はどの党も経済的利益を優先しているし、台湾経済は中国に頼っていることも事実。だから、私は特定の党を支持するのではなく、候補者個人を見て選んでいる。このようなのも多いよ。」若者の多くは迷うことなく民进党を支持していると思っていた私にとって、とても新鮮な意見だった。

さらに、選挙のためだけにわざわざ台湾に帰国するという友達もあり、日本では、投票意欲の低い人も珍しくないため、私は非常に驚いた。そして同時に、日本人も政治参加へのハードルを下げ、興味のある分野から一歩ずつ関心をもつべきだと強く思った。

台湾からの学びは私に、台湾政治を正しく理解し、日台関係の発展に貢献したいという目標を与えてくれた。この目標を実現するために、私は9月から台湾の大学院で日台政

治を勉強する。台湾のリアルをこの目で見るのが今から楽しみでたまらない！



優秀賞

我與臺灣的羈絆

東京中華学校高等部2年 中田愛

臺灣，是我喜歡的地方。我相信比起一般的日本人，我知道許多臺灣的事情。這是我從小學一年級開始便就讀於日本的臺灣學校。在那裡，我吸收到很多關於臺灣的知識與文化，如臺灣發展的歷史與引以為傲的特產等等。

在中學二年級時，我們全家去臺灣旅遊。這是我喜歡上臺灣的契機之一。我把我喜歡臺灣的地方歸納於以下三點。第一，我愛臺灣的美食。幸好我去臺灣時新冠肺炎還沒出現，所以我能夠體驗臺灣傳統的夜市。從四面八方聞到料理的味道，真令我垂涎三尺。我特別喜歡QQ餅、黑糖珍珠奶茶與刨冰。第二，臺灣有許多美景與觀光勝地。我拜訪的觀光勝地有臺灣著名的台北101、九族文化村、日月潭與貓空等。我們一邊欣賞美麗的自然風景，一邊享受了每個觀光地特有的魅力。第三，臺灣有一種很歡迎日本人的氛圍。這對身為日本人的我來說，是臺灣最大的魅力。臺灣曾經是日本的殖民地，直到現在，我們仍然會在臺灣市街上看到許多日式風格的建築與商店。除了這一點，令我更驚訝的是，竟然有許多

臺灣人都會說日文。我在臺灣旅遊中遇到了許多臺灣人，從與他們聊天的過程中，我知道很多臺灣人都很喜愛日本。

但是相反地，我最近覺得很多日本人對臺灣的了解其實不多。每當我和日本的朋友或是親戚說我就讀臺灣系的學校時，很多人不曉得臺灣和中國，以及繁體字和簡體字之間的差別。當我看日本教科書的世界地圖時，任何一本都沒有「臺灣（中華民國）」這個國名。這讓我感到相對臺灣人對日本的愛，日本並沒有特別喜愛臺灣。然而，最近我開始注意到生活周遭出現了許多的「小臺灣」。像是電視、雜誌等媒體陸續開始介紹臺灣美食、很多招牌上能看到繁體字，以及台灣餐飲店紛紛進軍日本等。我真希望這一個個「小臺灣」能夠引發更多日本人對臺灣的興趣。

臺灣雖然很小，但有種獨一無二的魅力，氣候與人情味都非常溫暖。我希望在未來，能在日本可以發揮我的影響力，讓更多的日本人對臺灣有更多良好的印象，為臺日關係盡一份心力。

私と台湾の絆

私は、台湾が好きだ。それに、私は一般的な日本人と比べて、かなり台湾について詳しいと思う。これは、私が小学一年生の時から日本にある台湾学校で学んでいるからである。そこで、私は台湾に関する多くの知識や文化、例えば台湾の発展してきた歴史や台湾の特産物などの情報を吸収してきた。

中学二年生のとき、私は一家全員で台湾旅行に行った。これが、私が台湾を愛するようになったきっかけの一つである。台湾はつくづく人を惹きつけるところである。第一に、私は台湾の美食が好きだ。幸い、私が台湾に行ったときはまだ新型コロナウイルスが現れていなかったため、台湾の伝統的な夜市を体験することができた。四方から料理の美味しそうな匂いがして、終始よだれが出っぱなしであった。台湾フードの中で、私は特にQQ餅と、黒糖タピオカとかき氷が好きだ。第二に、台湾にはたくさんの美しい景色と観光名所がある。私が訪れた観光地には台北101、九族文化村、日月潭や猫空などがある。私達は

美しい自然を見ながら、それぞれの観光地特有の魅力を感じることができている。第三に、台湾には日本を歓迎する雰囲気があると感じる。これこそが、日本人である私にとって、台湾の最大の魅力だといえる。台湾は日本（大日本帝国）の植民地であった。よって、今でも私達は台湾の街で多くの日本式の建築を目にすることができる。このこと以外に私を驚かせたのは、日本語を話せる台湾人が多くいたということだ。台湾周遊の中で私はたくさん台湾人と出会い、彼らとの会話から、多くの台湾人の日本に対する愛を感じた。

しかし反対に、私は最近まで、多くの日本人は台湾に対する理解があまりないと感じていた。毎回、私が友達や親戚に自分が台湾学校に通っていることを話すと、彼らのうちの殆どが台湾と中国、ないしは簡体字と繁体字の区別がついていないことに気づく。日本の教科書上に載っている世界地図を見ると、台湾（中華民国）の地名を明記している地図は一冊もない。これらのことは、日本人の台湾

に対する愛は、台湾人の日本に対するそれほど大きくないのかもしれないと感じさせる。しかし私は近頃、日本の暮らしの中にも多くの「小さな台湾」を見出すようになった。例えば、多くのメディアが台湾の美食についての特集を組み、日本への台湾料理店の進出を促進させている。看板などで繁体字を見かける機会も増えた。私はこれら一つ一つの「小さな台湾」が、日本人の台湾への興味を掻き立てる材料となしてほしい。

台湾は小さな国だが、他のどの国も持っていないような魅力を持っている。気候も人々の心もとても温かい。私は将来、より多くの日本人が台湾に興味を持つよう働きかけられるような、日本と台湾の橋渡しとなりたいたいと考える。

優秀賞

透過交流向台灣學習永續時尚

國際基督教大學 3年 河野 港

我學中文大概有兩年的時間了。但是，我和日本很多年輕人一樣，只知道台灣的飲食和觀光。有一天我在找關於台灣環保議題的文章時，看到禁止

使用塑膠吸管的報導，發現除了我以外，許多人都很關心環保議題。我就繼續找了更多資料，在尋找的過程中，無意中進一步發現了臺灣提倡永續時尚的報導。

我以前喜歡買很多便宜的衣服，但是穿不了那麼多。後來我把不穿的衣服拿到二手店，賣了之後再買新的款式，漸漸地很贊同永續時尚的概念。

我參加了一個推廣聯合國教科文組織理念的學生社團，我們從事多樣交流活動，會定期舉辦讀書會，討論多種國際社會問題。這當中我對台灣永續時尚的話題最感興趣。例如：台灣的舊衣回收率比日本高很多，領先日本的時尚產業。我以後想找輔仁大學永續時尚微學程的學生，辦一個學生交流會，去台灣搜集更多資

料，如果可以的話，希望能參觀永續服飾的製造現場。為了能更深入交流，我要努力學好華語，繼續關注台灣和永續時尚的資訊。

國際社會近年來提倡永續發展的目標。其中永續時尚是我們應該一起討論的重要問題。所以我希望透過交流活動，向台灣學習。

台湾に学ぶサステナブルファッション

私は、約二年間中国語を学んできました。ですが、多くの日本の若者と同じように、台湾に関して、飲食や観光しか知らないことに気がつきました。ある時、台湾の環境問題に関する資料を探していると、プラスチックストローの使用を禁止する旨の記事を発見し、多くの人が環境保護に対して関心を持っていることを知りました。更に他の資料に目を通していく過程で、私は、台湾がサステナブルファッションを推進しているという記事を見つけました。

私は以前、価格の安い服をたくさん買うことが好きでした。しかし、その中で、着る機会がない服も増えてきました。そこで、着なくなった服をリサイクルショップへ持って行き、それを買った後、また新しい服を買うようになり、サステナブルファッションの考え方に賛同するようになりました。

私はユネスコ憲章の理念に沿って活動し、様々な交流活動を行なったり、定期的に国際社会における問題

について討論する勉強会を開催したりするサークルに所属しています。このような国際的な問題の中でも、私は台湾のサステナブルファッションに最も興味を持っています。例えば、台湾の古着回収率は、日本よりもはるかに高く、日本のファッション業界に先立っています。私は、これから、台湾の輔仁大学でサステナブルファッションについて学ぶ学生たちとの交流会を開き、実際に台湾へ行って更に多くの資料を収集し、もし可能であれば、サステナブルな衣服の製作現場を見学したいと考えています。そして、さらなる深い交流のため、中国語学習に努め、引き続き台湾のサステナブルファッションに関する情報に注目していきたいです。

近年、国際社会では、SDGsが目標として掲げられ、国際的にその目標達成へ向かおうとしています。そのような中で、サステナブルファッションのような話題こそが、私たちが今、共に議論すべき重要な問題といえます。

私は、台湾との交流活動を通して、サステナブルファッションの発展を台湾に学んでいきたいと考えています。

オンライン交流会



河崎教授の台湾ミニ講座



「台湾に行こう！」と題して、台湾の歴史、日台関係や台湾の人たちの優しさについての講演を行っていただきました

謝代表メッセージ



台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表からお祝いのビデオメッセージをいただきました

台湾クイズ

Q1 日本と台湾の時差は？

- ① 30分
- ② 1時間
- ③ 2時間
- ④ 時差はない

台湾に関する四択クイズ。正解者には誠品生活日本橋の台湾フェアでのグッズ各種をプレゼントしました



台湾フェアでのグッズ各種

2 023年3月27日、本コンテ
ストの大賞・優秀賞の受賞者
および台湾出身の留学生をゲスト
として招待し、オンラインで交流会
を実施しました。
交流会では台北駐日経済文化代
表処の謝代表、渡辺審査委員長か
ら受賞のお祝いのメッセージをいた
だき、今回招待した台湾出身の留

学生からは留学体験や日台関係に
ついて感じたことをお話いただき
ました。
また、元産経新聞の台北支局長
で、現在は東京国際大学で台湾の国
際関係を中心に教鞭を執っている
河崎教授の台湾ミニ講座を実施。
台湾に関するクイズなども行い、
和気あいあいと交流を深めました。

幻想的な風景を楽しめる 台湾天とう上げツアー

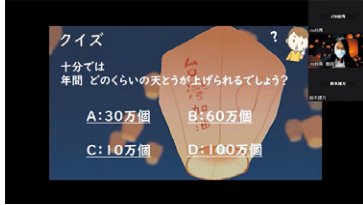
本 コンテストの応募者の中から抽選で、2023年4月7日に開催されたJTBの台湾オンライン旅行「願いを天とうに書いて大空に上げてみよう」にご招待しました。

台湾が近年特に力を入れている環境保全活動の一環として、ごみとして残らないように空で燃えてなくなる「エコ天とう」について開発物語を織り交ぜながら詳しく説明。伝統とエコの共存といったSDGsの考え方に触れました。

また、十分の街を現地からライブで繋ぎ、レポーターが街の様子や天とう上げをご案内。参加者からの願い事を書いた天とうを実際に上げる生中継も実施し、臨場感溢れる幻想的な風景を楽しみました。



レポーターが現地台湾から十分の街を生中継でご案内



天とうに関するクイズも実施



JTBガイドが台湾の情報を説明するなどツアーの進行役に



生中継で参加者の願い事を書いた天とうを実際に上げた

台湾出身の留学生から激励メッセージ

オンライン交流会にゲストとしてご招待した台湾出身の留学生から、受賞者の皆さんへの激励メッセージをいただきました。



廖秉睿さん

立教大学
異文化コミュニケーション学部
4年生

大学を卒業しました。
これからは院生として
研究していきたいと思えます



陳璟さん

筑波大学大学院
博士後期課程
人間総合科学専門科
芸術専攻3年生

2021年、茨城県の大洗磯前神社の鳥居前で撮りました

「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」の受賞者の皆さん、おめでとうございます。

交流会で皆さんが、日台の関係においてご自身の役割と位置づけを再考し、言葉にして表現する姿勢は、将来異なる分野で活躍する際に必要不可欠なスキルになると思います。日本と台湾は互いに学び合い、指摘し合える真の友人関係を築くために、将来きっと多領域の交流がますます重要になるでしょう。今後も、各分野でのご活躍を期待しています。

皆様、この度は受賞おめでとうございます。

皆様が多様な着眼点を持って台湾への思いや日台関係の未来を想像し、それぞれのストーリーを話しているのを見て、自分自身も励まされました。

早いもので私も、来日してから今年で7年目になります。日本に来て印象に残っているのは地方に訪問した際に台湾人である私に優しく接して頂き、「台湾大好き」や「震災の時は支援をありがとう」などの声を頂いたことです。

今までの日台交流は先輩方が築き上げてきた財産であり、これからは私達が主体となって輝かしい未来を実現する番です！ 未来を切り開けるように、共に頑張りましょう！

※メッセージは2023年3月時点でお送りいただいたものです。



今回実施された宣伝・PRおよびメディア掲載事例の抜粋を紹介します。

「日台文化交流 青少年スカラシップ」募集

産経新聞社は、将来の日台友好に貢献する人材を育てることを目的に「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」(協賛・JR東海、三井物産ほか)を実施します。作文とスピーチの2部門で、審査委員長の拓殖大学顧問、渡辺利夫氏らが選考にあたります。

応募締め切りは令和5年1月13日(金)。「台湾に関すること」をテーマに、作文部門(言語・日本語)は2000字以内、スピーチ部門(言語・中国語、台湾語)は3分相当のスピーチ論文を募集。スピーチ部門は論文審査通過者を対象に、スピーチと質疑応答の審査を行います。両部門の大賞には台湾旅行10万円分、オンライン交流会(3月下旬予定)にご招待。

詳細はホームページ(www.sankeisquare.com/scholarship/)で。問い合わせは、日台スカラシップ事務局(産経新聞社メディア営業局内、電話03・3275・8675、Eメールscholarship@sankei.co.jp)まで。

産経新聞(全国版) 2022年10月1日付

SANKEI Media Labo 産経メディアラボ @Sankei_SalesAdv

【第19回日台文化交流 青少年スカラシップ】
日本の学生を対象に #台湾 をテーマにした「作文(日本語)」「スピーチ(中国語・台湾語)」を大募集! 大賞は台湾旅行10万円分をプレゼント🎁 作品応募者には参加賞や、抽選でJTBオンラインイベントにご招待! 詳細情報はこちら👉
adv.sankei.com/scholarship/

13:22 · 2022/10/01

2件のリツイート 3件のいいね

産経メディアラボTwitter 2022年10月1日付

THE SANKEI NEWS 国際 経済 スポーツ エンタメ

中国・台湾 朝鮮半島 アジア 北米 中南米 欧州・ロシア 中東・アフリカ

「日台文化交流 青少年スカラシップ」作文とスピーチの2部門で作品募集

2022/10/1 07:01 みんなの反応

産経新聞社は、将来の日台友好に貢献する人材を育てることを目的に「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」(協賛・JR東海、三井物産ほか)を実施します。作文とスピーチの2部門で、審査委員長の拓殖大学顧問、渡辺利夫氏らが選考にあたります。

日本と台湾の新時代を拓く
第19回 日台文化交流 青少年スカラシップ

学生を対象に台湾をテーマにした
作文(日本語)
スピーチ(中国語・台湾語)
を募集!

募集締切
2023年
1月13日
応募

大賞
台北駐日経済文化代表館 代表賞
表彰状、台湾旅行10万円分ご招待、
オンライン交流会ご招待(2023年3月予定)

応募者の中から抽選で80名様に
JTBオンラインイベント
「願いを
天とついで
大空に上げてみよう」
にご招待!

応募締め切りは令和5年1月13日(金)。「台湾に関すること」をテーマに、作文部門(言語・日本語)は2000字以内、スピーチ部門(言語・中国語、台湾語)は3分相当のスピーチ論文を募集。スピーチ部門は論文審査通過者を対象に、スピーチと質疑応答の審査を行います。両部門の大賞には台湾旅行10万円分、オンライン交流会(3月下旬予定)にご招待。

詳細は公式ホームページ(adv.sankei.com/scholarship/)で。問い合わせは、日台スカラシップ事務局(産経新聞社メディア営業局内、電話03・3275・8675(土日祝日を除く、午前10時~午後6時)、Eメール:scholarship@sankei.co.jp)まで。

産経ニュース 2022年10月1日付




日台スカラシップ 大賞に黒木さんと溝口さん

日本と台湾の若者による文化交流の促進を目的とした「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J R東海、三井物産、台湾新聞社)の受賞者が決まった。作文とスピーチ(中国語・台湾語)の2部門に286名の応募があり、作文部門の大賞には黒木大誠さん(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)、「客家と私」が選ばれた。大賞、優秀賞の受賞者は、台湾旅行とオンライン交流会に招待される。

優秀賞の受賞者は以下の通り。(カッコ内は学校名、学年、敬称略)

【作文】甲田愛珠(横浜中華学院高等部2年)▽上野友誠(東京大学教育学部附属中等教育学校3年)▽勝又みひろ(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)▽金谷春輝(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)▽青谷樹次(新潟県立大島高等学校1年)▽福田笑心(鹿児島県立大島高等学校1年)▽鈴木捷万(鎌倉学園高校3年)

【スピーチ】荒川紋乃(岐阜市立女子短期大学2年)▽田村夏琳(関西学院千里国際高等部3年)▽鈴木楓子(青山学院大学4年)▽中田愛(東京中華学校高等部2年)▽河野港(国際基督教大学3年)




日台スカラシップ 大賞に黒木さん、溝口さん

日本と台湾の若者による文化交流の促進を目的とした「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J R東海、三井物産、台湾新聞社)の受賞者が決まった。作文とスピーチ(中国語・台湾語)の2部門に286名の応募があり、作文部門の大賞には黒木大誠さん(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)、「客家と私」が選ばれた。大賞、優秀賞の受賞者は、台湾旅行とオンライン交流会に招待される。

優秀賞の受賞者は以下の通り。(カッコ内は学校名、学年、敬称略)

【作文】甲田愛珠(横浜中華学院高等部2年)▽上野友誠(東京大学教育学部附属中等教育学校3年)▽勝又みひろ(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)▽金谷春輝(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)▽青谷樹次(新潟県立大島高等学校1年)▽福田笑心(鹿児島県立大島高等学校1年)▽鈴木捷万(鎌倉学園高校3年)

【スピーチ】荒川紋乃(岐阜市立女子短期大学2年)▽田村夏琳(関西学院千里国際高等部3年)▽鈴木楓子(青山学院大学4年)▽中田愛(東京中華学校高等部2年)▽河野港(国際基督教大学3年)

産経新聞(大阪版) 2023年3月16日付

産経新聞(東京版) 2023年3月16日付

THE SANKEI NEWS 中国・台湾 朝鮮半島 アジア 北米 中南米 欧州・ロシア 中東・アフリカ

「日台スカラシップ」作文部門大賞に黒木さん、スピーチ部門大賞に溝口さん

2023/3/16 13:30

国際 中国・台湾 ライフ 教育

みんなの反応

日本と台湾の若者による文化交流の促進を目的とした「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J R東海、三井物産、台湾新聞社)の受賞者が決まった。作文とスピーチ(中国語・台湾語)の2部門に286名の応募があり、作文部門の大賞には黒木大誠(くろき・たいせい)さん(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)の「台湾から考える私達の未来」が、スピーチ部門の大賞には溝口璃温(みぞぐち・りおん)さん(横浜中華学院高等部2年)の「客家と私」が選ばれた。大賞、優秀賞の受賞者は、台湾旅行とオンライン交流会に招待される。

優秀賞の受賞者は以下の通り。(カッコ内は学校名、学年、敬称略)

【作文】甲田愛珠(横浜中華学院高等部2年)▽上野友誠(東京大学教育学部附属中等教育学校3年)▽勝又みひろ(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)▽金谷春輝(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)▽青谷樹次(新潟県立大島高等学校1年)▽福田笑心(鹿児島県立大島高等学校1年)▽鈴木捷万(鎌倉学園高校3年)

【スピーチ】荒川紋乃(岐阜市立女子短期大学2年)▽田村夏琳(関西学院千里国際高等部3年)▽鈴木楓子(青山学院大学4年)▽中田愛(東京中華学校高等部2年)▽河野港(国際基督教大学3年)

> 「日台文化交流 青少年スカラシップ」WEBサイト

産経ニュース 2023年3月16日付

企画・制作/産経新聞社メディア営業局

日本と台湾の新時代を拓く

第19回

日台文化交流 青少年スカラシップ

日本と台湾の青少年による文化交流の促進を目指す「第19回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催=産経新聞社、共催=台北駐日経済文化代表処、協賛=JR東海、三井物産、台湾新聞社)、今回は作文とスピーチ(中国語・台湾語)の2部門で学生の作品を募集し、286点の応募があった。大賞には、黒木大誠さん(東京大学教育学部附属中等教育学校2年)の作文「台湾から考える私達の未来」と、溝口 謙温さん(横浜中華学院高等部2年)のスピーチ「客家と私」が輝いた。



作文部門 大賞

台湾から考える私達の未来



黒木 大誠

「台湾から考える私達の未来」

台湾の文化や歴史を学ぶことは、私にとって大きな学びとなりました。台湾の人々もまた、私たちの文化や歴史に興味を持っています。お互いの文化を尊重し、理解し合うことが、未来の平和な世界を築く鍵だと思います。...

スピーチ部門 大賞

客家と私



溝口 謙温

「客家と私」

客家は、中国の歴史の中で重要な役割を果たしてきました。彼らの文化や生活様式は、台湾の文化に大きな影響を与えています。客家の精神や価値観を学ぶことは、私にとって大きな学びとなりました。...

客家と私

客家は、中国の歴史の中で重要な役割を果たしてきました。彼らの文化や生活様式は、台湾の文化に大きな影響を与えています。客家の精神や価値観を学ぶことは、私にとって大きな学びとなりました。...

客家と私

客家は、中国の歴史の中で重要な役割を果たしてきました。彼らの文化や生活様式は、台湾の文化に大きな影響を与えています。客家の精神や価値観を学ぶことは、私にとって大きな学びとなりました。...

スピーチ部門 優秀賞

- 荒川 絛乃 (岐阜市立女子短期大学 2年)
鈴木 颯子 (青山学院大学 4年)
河野 滯 (国際基督教大学 3年)
田村 夏琳 (関西学院大学千早国際高等部 3年)
中田 愛 (東京中華学校高等部 2年)

作文部門 優秀賞

- 甲田 愛珠 (横浜中華学院高等部 2年)
金谷 春輝 (東京大学教育学部附属中等教育学校 2年)
鈴木 遼万 (鎌倉学園高校 3年)
上野 友誠 (新潟県立大学 3年)
青谷 樹哉 (新潟県立大学 3年)
藤又 みひろ (東京大学教育学部附属中等教育学校 2年)
福田 美心 (鹿児島県立大高島高等学校 1年)

主催: 産経新聞社
共催: 台北駐日経済文化代表処
協賛: JR東海, MITSUI & CO., 台湾新聞社
協力: 外交部 教育部 台湾日本関係協会, Taiwan 台湾観光局
後援: 日本台湾交流協会, 自由時報

審査委員長: 渡辺 利夫 (元朝日新聞社)
作文部門審査委員: 張温 毅 (台北駐日経済文化代表処 広報部 次長), 阿古 節子 (東京大学 総合文化研究科 教授), 林 麗 儀 (自由時報 東京特派員), 河崎 眞澄 (東京国際大学 国際関係学部教授), 桑村 朋 (産経新聞 編集局)
スピーチ部門審査委員: 黄 明 珠 (台北駐日経済文化代表処 広報部 部長), 杜文 創 (横浜中華学院 校長), 蔡 偉 權 (自由時報 東京特派員), 林 麗 儀 (自由時報 東京特派員), 河崎 眞澄 (東京国際大学 国際関係学部教授), 桑村 朋 (産経新聞 編集局)



第19回日台文化交流 青少年スカラシップの審査を終えて

東京国際大学 国際関係学部教授、元産経新聞台北支局長 河崎 眞澄

産経新聞台北支局長として台湾に駐在していた当時、この「日台文化交流 青少年スカラシップ」が誕生してから、あつという間に20年近くが経過しました。今回も審査員の一人として参加させていただいた喜びを、改めてかみ締めています。

かつて台湾研修に來られた何人もの受賞者が、その後、進学や留学、就職などで台湾のみならず世界に飛翔していった姿をこの目で見てきたからです。今回、受賞された一人一人が将来、いかに人生を切り開き、社会に貢献していくか、楽しみです。

作文部門で大賞となった中学生の黒木大誠さんが書いた「台湾から考える私達の未来」に描かれた「二人の伯母」の震災体験と、そこに結び付いていた台湾との見えざる絆の描き方に、深く感動しました。

1999年9月の台湾中部大地震（921大地震）を台中で被災した伯母さん、2011年3月の東日本大震災を岩手で被災したもう一人の伯母さん。お二人とも台湾の人々からいち早くいただいた支援で、困難な時を乗り越えたことへの感謝が、甥っ子である黒木さんの意識を強く台湾に向けさせたのでしょうか。

台湾の駐日大使にあたる謝長廷・台北駐日経済文化代表処代表が話されている日本と台湾の「善の循環」はまさに、二人の伯母さんが体験されたような感動がきっかけで回り始めました。「謝謝台湾！」を叫ぶその次に、どうしたら台湾の人々の力になれるか、きっと黒木さんは考え抜いて、行動するはずですよ。

スピーチ部門で大賞となった高

校生の溝口璃温さんが話した「客家と私」もすばらしい洞察でした。自分のルーツはどこにあるのか。伝統や文化、家族や言語が、自分自身に刻まれていると肌で感じられたようすが、伝わってきました。

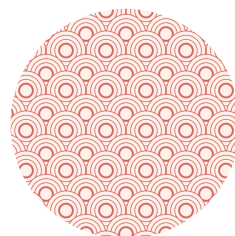
発表後に私が「台湾元総統の李登輝さんも客家だったことをご存じ？」と質問したことを覚えていますか？「客家」とはどんな人たちなのか。溝口さんも祖先からのルーツをどう生かして、自らがいかに台湾や国際社会に貢献できるかを考え、ぜひ、行動で示してくださいね。

黒木さんや溝口さんに限らず、参加者すべてのみなさんが、日本にとって最も身近なお隣の国、台湾との絆を、ずっと大切にしていって下さることを強く願っています。

さあ！台湾に行こう！

第19回日台文化交流 青少年スカラシップ 実施報告書

発行・編集:産経新聞社
印刷・製本:サンケイ総合印刷株式会社



主催:  産経新聞社

共催: 台北駐日經濟文化代表処

協賛:  JR東海  MITSUI & CO.  臺灣新聞社
TAIWAN NEWS

<https://adv.sankei.com/scholarship/>

